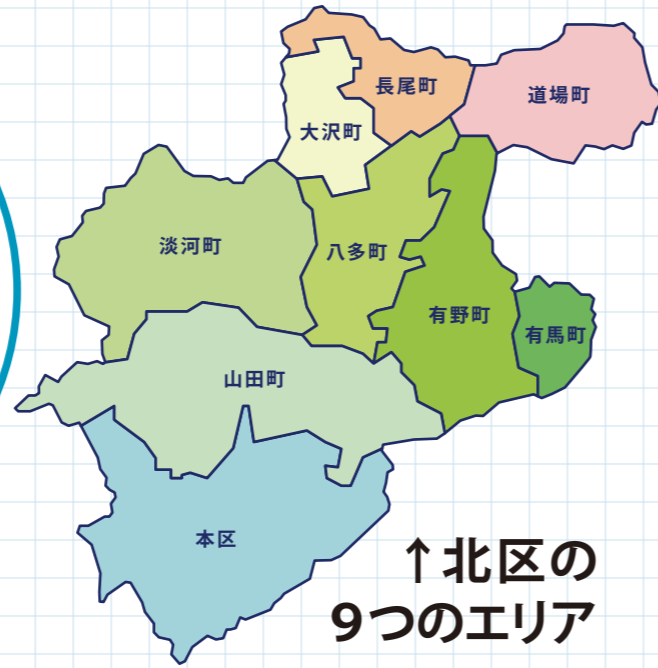


「きたくろす」って何？

「きたくろす」とは、北区制50周年をきっかけに、北区で「まちを楽しむ」ことを実践されている方々に、エリアやジャンル、世代を越えて集まっていただき、北区の様々なヒトやコトを紹介しながら、参加者同士の交流を促す、サロン型イベントです。



↑北区の9つのエリア



Talk Session “北区な人々”に出会うイベント

きたくろす



北区の地域プレイヤーが “クロス”する トークセッション

北区は9つのエリアに分かれており、それぞれのエリアで色々な活動が行われていますが、お互いに知り合う機会や行き来することは多くはありません。そこで、北区の様々なエリアの方をクロスさせる形のトークセッションを定期的で開催し、互いにつながりをつくろうという企画です。(“北区な人々”をクロスさせる=きたくろす)

きたくろすにご登壇いただいた 「北区な方々」

<p>第1回</p> <p>からとの未来を考える会 小幡 健さん</p>	<p>FAMITTO代表 高木 かおりさん</p>	<p>淡河町地域振興推進協議会 「淡河マツショイ」 武野 辰雄さん</p>	<p>Re.colab KOBE 関西学院大学 水本 葵さん</p>
<p>第2回</p> <p>美術家 伊達 伸明さん</p>	<p>鈴蘭台日々カフェ 島田 香里さん</p>	<p>社会学者 (神戸市地域活性アドバイザー) 松村 淳さん</p>	<p>北区在住 (神戸市北区役所職員) 山田 隆大さん</p>
<p>第3回</p> <p>ごっこあそびひろば 副施設管理者 中川 博文さん</p>	<p>ネットテラス鈴蘭台 ダイハツ神戸北 仲本 真由美さん</p>	<p>エコー・リラ 所長 服部 宏行さん</p>	
<p>第4回</p> <p>シンガーソングライター ミチコさん</p>	<p>神戸電鉄(株) 運輸部 係長 望月 健志さん</p>	<p>magatama field 遠藤 修作さん</p>	<p>大沢町地域事務局 大家 喜八郎さん</p>
<p>NPO法人 北区子育て支援センター/ のらふあーむ 山中 貴代美さん</p>	<p>第5回</p> <p>有野町自治連合会会長 黒田 光昭さん</p>	<p>eu建築設計代表/ (一財)淡河宿本陣跡保存会 代表理事 村上 隆行さん</p>	<p>神戸R不動産 ディレクター/ Lusie Inc. 取締役 岩崎 大輔さん</p>
<p>満月堂 吉村 研一さん</p>	<p>ロックシンガー 福井 秀さん</p>	<p>有馬せんべい本舗 浅井 里枝さん</p>	<p>第6回</p> <p>道場みらい隊 藤原 宏明さん</p>
<p>山田町 これから部 山田 富美さん</p>	<p>(株)トリニティキャリアマネジメント/ ファザーリングジャパン関西 近澤 武生さん</p>	<p>親塾(おやじゅく) 近澤 麻美子さん</p>	<p>小学校教諭 深田 佳宏さん</p>
<p>神戸親和大学教育学部 児童教育学科講師 須増 啓之さん</p>	<p>NPO法人Homika共同代表 幣 賢人さん</p>	<p>第8回</p> <p>(株)クラウドアーキテツク 代表取締役 / 建築家 川上 真誠さん</p>	<p>スラカフェ 藤井 和博さん</p>
<p>第9回</p> <p>なかの工芸(株) 竹歳 真希さん</p>	<p>(株)デザインヒーロー 和田 武大さん</p>	<p>(株)みぎにひつじ 江藤 洋平さん</p>	<p>(株)トーハク 市橋 英紀さん</p>
	<p>神戸地域おこし隊 五十嵐 浩輔さん</p>		

第9回までに
44名がご登壇
各回のご紹介は次ページ!

2023/3/26
トークテーマ 北区の未来を考える

第1回

人と人がつながる

記念すべき第1回目は、50周年記念事業のオープニングイベントで開催しました。登壇者は、北区に暮らす・働く・活動する4名。「北区の未来」という大きなテーマでしたが、皆さまの活動は、もっと小さなエリアでのこと。4名に共通していたのは、全員が「人と人がつながる」ことを目指されているということです。まさに「きたくろす」のテーマであり、第1回目に相応しい会となりました。

いつでも帰ってこれる場所をつくる

そして、もう一つの共通点が「いつでも帰ってこれる場所をつくる」という意識。北区で生まれ育った人達がいつ戻ってきてもいいよう準備されている姿勢が素晴らしいです。
武野さん：淡河町で活動をしています。淡河町は、人口が減っていますが、移住したい人が300人も待っています。未来は明るいです。
高木さん：鈴蘭台で「本」を通じたにぎわいづくりに取り組んでいます。若い人も高齢の方も交わるまちを目指したいですね。
小幡さん：唐櫃で「住んでいる場所を楽しく！」をモットーに暮らしています。北区は「自然」の存在感がすごい、四季を感じるって素晴らしいです。
水本さん：大学生グループ「リコラボ」で、生物多様性の保全や耕作放棄地の解消に取り組んでいます。人と自然、人と人がつながる機会をつくりたいです。

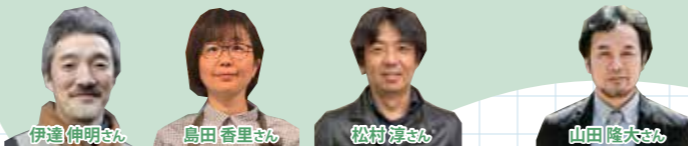


トークテーマ まちの風景を愛でる

2023/4/27

まちには色々な「顔」がある

第2回目のテーマは「まちの風景」。住宅地、自然、農村が混ざり合う北区は、様々な「顔」をもっています。また、鈴蘭台は、建物の解体や区画整理などの事業も進行中。まちの色々な「顔」を再認識して、まちに親しみ、まちを遊ぶ視点について学ぶ機会となりました。美術家の伊達伸明さんから、まちの風景、解体される建物、地域に暮らす人々の思い出などをつなぎ合わせる独創的なアプローチが紹介され、他の皆さまの地域での営みと重なります。



伊達さん：あまり注目されないまちの風景を大事にしています。そこに暮らす人の話を聞くことで、その面白さは広がります。鈴蘭台は、面白い階段が多いですね。
松村さん：まちづくりの起点として「 commons」を研究しています。まちづくりは、老若男女が集まる、人と人が出会える場所をつくるだけでいいのかもしれない。
山田さん：北区の農村が好きで、休みの日は草刈りしたり、耕したりしています。一方、坂あり、階段ありの鈴蘭台の町も大好きです。
島田さん：日々カフェには高齢の方がたくさん来ますが、元気な方が多い。高齢の方には、社会や人の役に立つ何かの役割を与えることが大切だと思っています。

「まちの風景」は人が集まることで形成される

第2回

地域と企業はWin-Winの関係

第3回

「地域と企業」は、お互いに積極的に関わりを持つことにより、地域にとっては住民の暮らしやすさや幸福度が増し、企業にとってはブランドイメージが上がる可能性を秘めています。両者の関係と可能性について、登壇者の体験談などを交えながら意見交換を行いました。地域の子も達や家族が集う場所を企業がつくる。ジャンルは、福祉、遊び、音楽など様々。人口減少が確実に進んでいく中で、企業が存続し続けるためには、商品やサービスだけでなく、「地域にしっかり貢献していく、そして、一緒ににぎわいをつくる」こと。

地域と企業の豊かな関係

2023/6/5

地域に貢献する、一緒ににぎわいをつくる

中川さん：福祉の人間が他分野と交流するのは珍しいんです。きたくろすへの参加はとても嬉しいです。
服部さん：地域からの相談で「北神×三田 元気ハツラツマルシェ」が実現しました。
ミチコさん：岡場のストリートピアノは、実は凄いいピアノなんです。音楽がある場所は交流も生まれます。
仲本さん：地域のイベントには積極的に参加して、地域との関係をつくるようにしています。
望月さん：花山駅のリニューアル時は、会場が地域の方であふれかえっていました。



第4回

北区は自然がいっぱい

北区の面積は神戸市9区の中で1番広く、ニュータウンなどの住宅地域もありながら、豊かな自然に恵まれた緑のまちの魅力もあります。北区らしい自然との触れ合い方や生物多様性の保全などについて意見を交わしました。登壇者は過去最大の6名。「学びと体験」「生き物環境」「農村活性化」「キャンプ」「伝統と観光」、それぞれ「北区の自然」に関わるカタチは違いますが、共通しているのは北区のポテンシャルは高く、もっとたくさんの人に知ってほしいということでした。

トークテーマ 北区の自然と一緒に...

もっとたくさんの人に知ってほしい

2023/7/7

遠藤さん：子ども達が農村を学ぶエコツアーを北区のあちこちで開催したいです。
大家さん：20年前から開催している「どろんこバレー」。神戸外からも参加してくれます。
日野さん：天王ダムでのピクトブの管理に、ピクニックがてら、犬の散歩がてら、ぜひ参加してください！
諸田さん：北区には「自然」はもちろん、茅葺や伝統などの「昔ながらの暮らし」が残っています。
安田さん：柏尾谷でキャンプ場を復活させます。専門は「防災」、レジャーだけでなく学べるキャンプ場に！
山中さん：谷上に農を学べる場所をつくっています。食べ物を育てる、道具をつくる「手仕事」を増やしたいです。



2023/8/24

第5回

トークテーマ 使い続ける大切さ～空き家・空き地・伝統・文化～

続けることが文化につながる

北区にも近年増えている「空き家」や「空き地」、北区に昔から残っている「伝統」や「文化」、一見全く違うことのように見えますが、どちらも「使い続ける」ことが大切です。これらに関わっている方々で、活動のご紹介と意見交換を行いました。続けることで文化が生まれるんですね。まちづくりでは、つい、新しいものをつくったり、これからどう変化させていくかに目を向けてしまいがちですが、北区にはすでに素晴らしい場所や文化があることに気づかされました。これらをどう使い続けていくか、北区に関わる全員に与えられた命題のようでした。
黒田さん：20年近く自治会に関わっています。北区は住み心地がよい、これを次世代にどう繋げていくかが大事です。
村上さん：淡河町の実家では、家で牛を飼いつつ、宴会場もあるなど、ひとつの建物で複合的な機能を持っていました。
岩崎さん：商業地と住宅地が分離されると、住環境を守る雰囲気が強くなり、「業」を営むのが難しくなりますね。
藤本さん：北区には農村歌舞伎舞台がたくさん残っています。農村歌舞伎を多くの方に知ってほしいです。
小幡さん：北区は土地が広い。空き地をそのまま活かして、色々な植物を植えられたらと想像が膨らみます。



北区は今でも素晴らしい

「お祭り」って何のため?

第6回

地域の「お祭り」はコミュニティづくりやにぎわい創出につながり、北区の将来を考えるうえで重要な視点となります。今回の会場は茅葺屋根の「内田家住宅」。昔ながらの空間が残る場所で、お祭りやイベントについて意見を交わしました。各地で色んなお祭りがありますね。特に若い人にとっては、お祭りの存在を知ってはいても、経緯や目的までは知らないことが多いので、地域の想いを学ぶ良い機会となりました。そして、何より大事なものは、皆さまが口を揃えて言われた「自分が楽しむこと」でした。

2023/10/14

トークテーマ 北区の「お祭り」を考えてみる

何より、自分が楽しむこと

藤原さん：4年ぶりに道場町内を巡る「とりっぴng道場」を開催。まずは、自分達が楽しめないといけません。
吉村さん：東京から帰省して、お祭りに関わる若い子もいるので、「お祭り=地域の同窓会」となればいいですね。
福井さん：20年以上前からバンドをしていますが、北区だけはライブをしたことがない…。元気なうちに北区でやりたい！
浅井さん：有馬で炭酸せんべいを作っていますが、有馬だけでなく、他のエリアともつながりをつくりたいですね。
山田さん：地域の方が3世代、4世代みんなが楽しめるようなお祭りができたらいいなと思います。



大人目線では気づかないこと

将来の担い手となる子ども達にとって今の北区はどのように映っているのか?子ども達に残していきたい北区の未来とはどのようなものなのか?各地で子どもに関わる活動をされている方々で、それぞれの考えや北区で今後やりたいことを意見交換しました。大人目線では気づかないことも多々あります。テーマは「子ども」でしたが、地域、部活動、交流拠点、アート、公園など話題は多岐に展開し、まさに「北区な人々」が「クロス」されて、登壇者同士が楽しんでいました。共通していたのは「子どもが集まる場所をつくりたい」こと。



第7回

近澤(武生)さん：子どもを元気にするにはまずは親から。笑顔の父親を増やす活動をしています。
近澤(麻美子)さん：ママ友からの相談で「親塾」をしています。学校教育が小さくなる時代、地域に子どもの拠点がほしいですね。
深田さん：おばあちゃん、お母さん、子どもが同じ小学校出身みたいな地元感が大好きです。
須増さん：大学では教員を目指す学生に教えています。そんな若い子達の居場所となるお店が増えるといいですね。
幣さん：最近の注目は「公園」です。砂場を耕すとか、公園って可能性を秘めていますよ!

子どもが集う場所づくり

トークテーマ 子ども目線の北区の未来

2023/10/21

駅は交流の場でもある

第8回

日々、多くの人々が行き交う駅は、「電車に乗る場所」だけではなく、「人々の交流の場」となる可能性があります。今回は、「駅」という場所を軸に活動されている方々の活動内容のご紹介と意見交換を行いました。交通や買物などの利便さは、駅によってサービスに差がありますからね。

2023/12/4

トークテーマ これからの「駅」のつかいかた

駅は「まちの入り口」

話に登場した駅は、岡場駅、花山駅、谷上駅、北鈴蘭台駅、新神戸駅。便利な駅、遊び心のある駅、居心地のよい駅、情報のある駅、色んな話題が飛び交いますが、駅は「まちの出口」ではなく「入口」であるべきなんでしょうね。
川上さん：地域にあった建築を目指しています。中央区から北区に来てもらえる流れをつくりたいですね。
藤井さん：北区に暮らしながら、街のにぎわいづくりの活動をしています。駅の名前が有名になれば地域も活性化すると思っています。
坂本さん：谷上駅の「まるたベンチ」をきっかけに北区に関わりができました。駅舎もラッピングしてみたいです笑
井上さん：北区との関わりは谷上駅の「まるたベンチ」。もっともっとベンチを増やして関わりも増やしたいですね。
松浦さん：新神戸駅で登山の拠点を運営しています。歳をとっても、車いすになっても自然と触れ合える環境をつくりたいです。



デザインの色々な役割

第9回

デザインは単に「形や色」というだけではなく、人をひきつけ、動かす力を持っています。例えば、観光やイベントだけでなく、防災や福祉などの地域の課題を見えやすくする、伝わりやすくする、そして行動を起こさせることもデザインの大切な役割です。今回の登壇者は、デザインを広く捉えて活動されている方々。「あなたにとってのデザインとは?」という質問に対して、「地域の邪魔者を宝物に変えるもの」、「特効薬ではなくきっかけをつくるもの」、「当たり前の日常をつくるもの」など、返ってきたのは素敵な言葉ばかりでした。

2024/1/17

トークテーマ 「デザイン」は地域を元気にできるか?

竹歳さん：デザインとは、物事をよりよくすること=「すこやか」。何事も無理をするのは良くないと思っています。もちろん自分自身にも!
和田さん：デザインの前後を大事にしています。デザインは「おせっかい」、生まれ育った北区に勝手に恩返しをしていきます!
五十嵐さん：デザインは「色気」。旨味、趣、魅力を引き出してその気にさせるデザインを心がけています。北区に似合う音楽カルチャーも育てたい。
江藤さん：伝えるではなく、「伝わる」こと。自分本位ではなく、他者の目線。子ども達にも北区の面白さが伝わってほしい。
市橋さん：デザインは「プロポーズ」。空が広い、土地が広い、遊べる空間が多い北区の良さを色んな人にプロポーズしたいですね。

あなたにとってのデザインとは?



裏話

【登壇者からの美味しい差し入れ】
北区にある茅葺民家・内田家住宅で開催された第6回のきたくろすでは、お昼をまたぐ時間だったため、内田家住宅の中にある昔ながらのかまどを使って、北区産の新米を炊いて登壇者や参加者へ振る舞いました!お米は、山田富美さんから提供いただきました。また、満月堂の吉村さんからは「豊助饅頭」が差し入れされました!



北区には「まちを楽しむ隠れた天才」がたくさんいるはず。どんどんつながって、もっと面白い北区にしていきましょう。わたしも、あなたも、クロスすることで何かが生まれますよ。



神戸デザインセンター 舟橋 健雄さん
同社代表取締役。阪神・淡路大震災をきっかけに、大学の仲間とNPO法人を立ち上げた。2005年より神戸デジタル・ラボにて、広報やマーケティングなどの業務を担当。北区制50周年記念事業「きたくろす」発案者。